

## 研究結果報告書

モンゴル・日本外交関係における民間交流の役割についての実証研究（1954～1972）

所属：モンゴル科学アカデミー 歴史・考古学研究所

役職：教授

氏名：ガリンデヴ・ミヤグマルサムボー

1954年からモンゴルと日本が国交を樹立した1972年まで、民間交流は両国の関係促進に多くの貢献を果たしたが、これまでの研究ではほとんど注目されなかった。本研究は文献資料と聞き取り調査の成果に直接基づいて、遺骨収集や国連加盟、日モ国交関係締結をめぐる民間外交の実態を明らかにすることを目的とした。具体的に、下記の4点を中心に、調査、研究を行い、モンゴルと日本の国交締結における民間交流が果たしたイニシアティブと役割を検証した。①関係各国の文献発掘調査と当事者への聞き取り調査、②日本人遺骨収集事業における民間交渉、③国連加盟時期における民間人の交流、④国交締結における民間外交の役割。

今回の調査を通じて「モンゴルと日本の外交関係における民間交流の役割」について下記を確認した。

第2次世界大戦後、モンゴルに抑留された日本人の引き上げをめぐる正式な外交関係がない状況で両国の民間交流は始まった。その後、長期抑留者の送還をめぐる交渉（1954～55年）は、両国の赤十字社など民間組織を通して行なわれたが、その時期はモンゴルと日本が国連への加盟（1955年の18国一括受け入れ）を申請するタイミングと重なっており、両国の国民は相手国に対する関心はさらに強まることとなった。

1960年代以降、モンゴルに残された日本人抑留者の墓地を訪問する民間の墓参団がモンゴルに来るたびに、二国間の関係が同時に話し合われ、両国の交流を発展させる新しい歩みが踏みだされていった。国交締結をめぐる両国の政府レベルの交渉はまさにこのような民間レベルの交流を基礎にして展開したのである。つまり、冷戦下における社会主義と資本主義という二つの異なる体制下にそれぞれ帰属して、お互いを不信の目で見ていた、モンゴル・日本両国民の間に信頼が生まれ、協力関係が回復する。その主たる契機となったのが、まさにモンゴルに抑留された兵士の問題であった。そして、両国関係は、さまざまな段階を経て回復してゆき、1972年ついに外交関係樹立へと至ったのである。

上記の調査、研究結果に関しては、2016年5月に東京で国際シンポジウムに参加し、日本の研究者と意見を交換し、研究成果の一部を発表した。2017年3月ウランバートルで学術会議を行い、研究成果を世界に発信した。さらに同年6月著書『モンゴル・日本外交関係における民間交流の役割』（モンゴル語、ウランバートル）を公刊した。

## 研究成果の公表について

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1. 「モンゴル・日本両国の関係とモンゴルに残された日本軍将兵の遺骨について」、ガリンデヴ・ミヤグマルサムボー、国際シンポジウム「日本人のモンゴル抑留とその背景」、2016年5月28日、昭和女子大学80年館
2. 「モンゴル・日本外交関係の促進におけるモンゴル赤十字社の役割（1966～70年）」、ガリンデヴ・ミヤグマルサムボー、ワークショップ「冷戦時代におけるモンゴルと日本の民間交流」、2017年3月21日、モンゴル科学アカデミー歴史・考古学研究所

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）

『モンゴル・日本外交関係における民間交流の役割』（モンゴル語）、ガリンデヴ・ミヤグマルサムボー、ADMON 社、2017年6月